

平成 30 年度

かぶらぎ

蕪木遺跡 発掘調査だより 10・11月

平成 30 年11月20日

阿賀野市 生涯学習課

株式会社 帆 苺 組

はじめに

7 月から実施してきた蕪木遺跡発掘調査が終了しました。発掘調査だより最終号として、これまでの調査の成果についてまとめます。あわせて、9 月 10～15 日の 6 日間に開催した「一般公開」の様子もお伝えします。なお、発掘調査だよりは、市のホームページでも公開しています。ご覧ください。

1. 発掘調査の成果

調査ではA区東端～中央付近を中心に、建物をはじめ、柱穴・遺物集中（遺物が集中する地点）などたくさんの遺構が見つかりました（図1）。

建物は3棟の掘立柱建物が確認されています。建物2は、梁間2間×桁行2間の掘立柱建物です。今後検討しなければなりません。庇（ひさし）が付く立派な建物になる可能性もあります。建物3では、柱穴2基（A18・54）に柱材が残っていました。

A区中央付近の遺物集中①では、故意に壊した須恵器の大甕片のほか、様々な器種の食膳具・貯蔵具が散乱していました。大甕とともに、焼けた石・炭化物などが見つかることから、呪い（まじない）の場である可能性があります。建物2東側でも、同じような遺物集中②が見つかっています。

A区中央から西側は、特徴的な遺構が少なくなります。西側（B区）の低地では、溜井（ためい：水田に用いる穴）と思われるB9を伴う溝（B6）が見つかりました。溝からは多くの古代須恵器・土師器片が出土しています。また、溜井からはウメの種（核）や「大」の文字が記された墨書土器が出土しました。

出土品は古代（約1200～1100年前）の土器・陶器が主体です。須恵器坏・甕・坏蓋・瓶（へい）・横瓶（よこべ）、土師器碗・甕のほか、灰釉陶器や須恵器耳皿のような希少品、墨書土器2点などが出土しています。また、漁網に用いる土錘（どすい：おもり）も4点見つかっています。

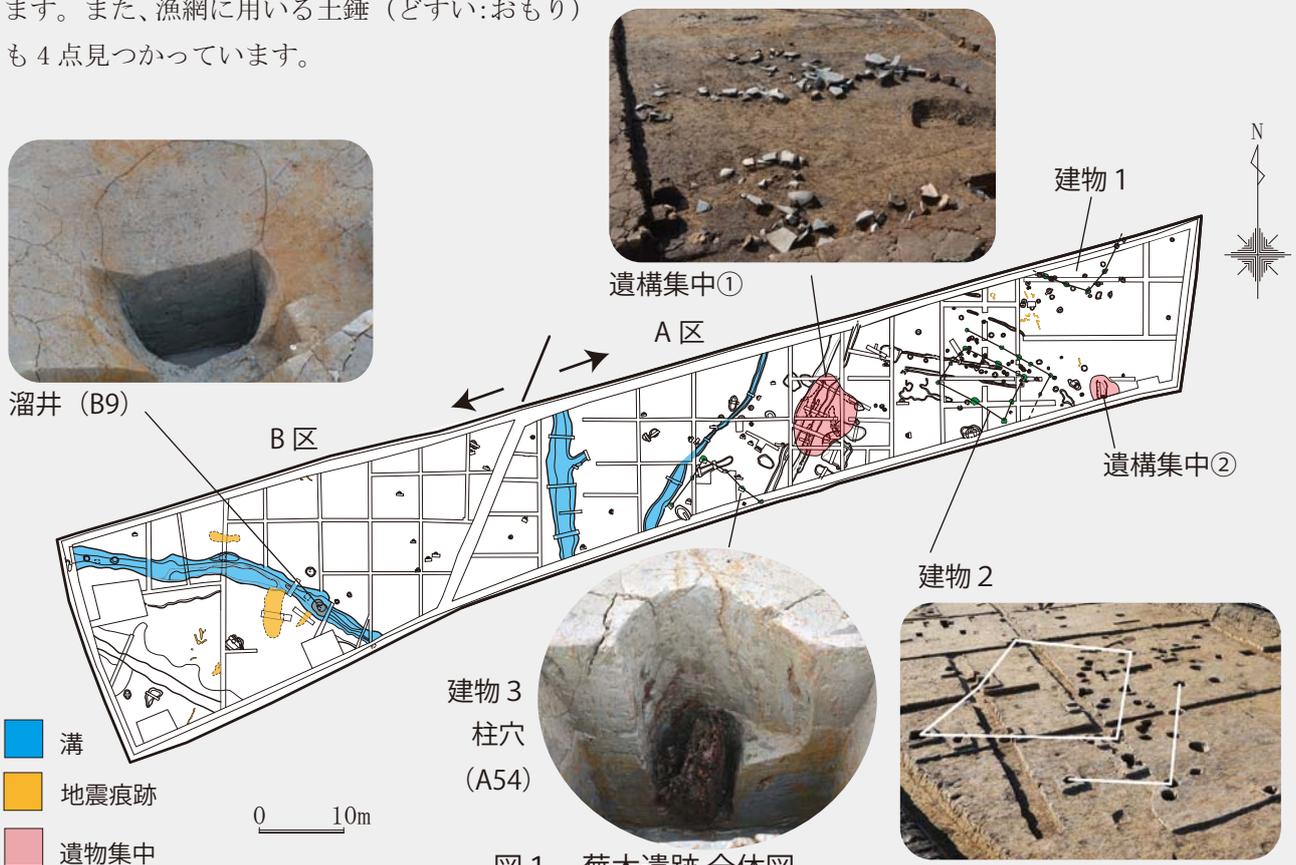


図1 蕪木遺跡 全体図

2. 発掘調査から見てきたこと

遺跡南側には、S字状に蛇行しながら旧阿賀野川（現在の百津瀨）に注ぎ込む小河川が流れていました。遺跡は小河川がS字に曲がる右岸に立地します（図2）。調査範囲が東から西方向に向かって緩やかに傾斜することから、A区東側～中央は微高地、西側B区は低地であったと思われます。

これまでに調査された建物群の配置をあわせると、微高地にはたくさんの建物群が配置されていたと考えられます。いっぽう、B区では遺構はなくなります。ところが、今回の調査では溜井を伴う水路（溝）が見つかりました。おそらく西側の低地では、水田耕作に関わる土地利用が行われていたことが推測されます。

このような水田耕作を伴う生業だけでなく、これまでの調査で10点もの土錘が出土しています（写真1、県事業団調査では6点出土）。これによって、河川での川漁もさかんに行われていた様子がうかがえます。

これまでの調査から、蕪木遺跡はこの地域の有力者の屋敷地であると考えられてきました。しかし、その具体的な姿は見ていませんでした。今回の調査では、小河川に面する小高い場所に多くの建物群が並び、河川や低地を有効に利用する古代の人びとの生業活動の様子や経済基盤の一端が見えてきました。この河川沿いには、蕪木遺跡と同時期の砂田遺跡・村北遺跡・石船戸遺跡（M区）などが等間隔にあることも興味深い点です。河川や低地をめぐる共同資源管理・利用の実態把握にも迫ることができるかもしれません。

3. 一般公開のようす

9月10日～15日の6日間、遺跡発掘調査現場を一般公開しました。開催期間中、152名もの大勢の方々が見学に来られました。また、市内だけでなく、周辺市町村から見学に来られた方も多くいました。みなさん、本当にありがとうございました。

ふだん見ることができない発掘調査の様子をご覧になられた見学者からは、「こんな間近で見ることができて、うれしい!!」、「近所にこんな遺跡があるなんて、すごい!!」などの感想をいただきました。また、出土品ミニ展示コーナーでは、昨年度に調査した村北遺跡・砂田遺跡の出土品も併せて展示しました。様々な出土品があることにとても驚かれていました。

引き続き、市教育委員会では、遺跡の公開・活用に取り組んでいきたいと思っています。



図2 遺跡の位置図



写真1 川漁で使われる土錘



写真2 現場での説明の様子